

米原歴史街道

米原市の歴史・文化財を歩く ⑪⑦

近江地域の奴振り①

— 奴振りの歴史と芸態 —

奴振りの民俗

市内には、多彩な民俗芸能や民俗行事が伝えられています。伊吹山麓の伊吹・山東地域に伝承されている「太鼓踊り」。米原の町衆の「曳山祭」。伊勢物語（平安時代初期）に筑摩のまつりと詠まれた奇祭「鍋冠祭」。磯に伝わる「武者行列」や「まぬけ踊り」。全国的にも稀少な戦国口ケツト「流星」。民俗行事では、祖霊信仰にまつわる醒井の「地藏盆」や山東地域の「大松明」。各地域の「オコナイ（華の頭）」や、真宗の民俗「廻り仏」などがあげられます。このほかの芸能行事や、すでに途絶えてしまったものもあります。米原市はまつりの宝庫といえそうです。

なかでも近江地域には、三つの「奴振り」と「角力踊り」「奉納角力」という、地域の社寺に奉納されるまつりが特徴的です。

奴振りは、北海道から九州まで全国的に分布していて、市内でも、春照の太鼓踊りや鍋冠祭でもみることができま。御神体や神輿、貴人の

移動に際して、その前後に奴の姿をした男性が行列を組み、挟箱（伊達箱）、立傘、台笠、毛槍を持ち、独特の足運びで練り歩きます。道具をゆすつたり、投げ渡したりする勇壮なようすが見どころです。その扮装から仮装行列のようにみられがちですが、その本領は「振り」にあつて、奴をつとめる人たちは、そのために練習を重ね、芸を磨きます。

春照の奴振りは、かつてここが北国脇往還の宿場町であったことから「参勤交代の大名行列」に由来するといわれますが、もともと江戸時代には、武士や高貴な人物の格式として外出時の供揃えの決まりがあり、挟箱や毛槍の道具や人数の構成が決められていました。参勤交代の大名行列はもちろ、長崎奉行や朝鮮通信使、和宮降嫁などのお輿入れ行列、公家や神官僧侶の行列にもみられた行列です。

福田寺の公家奴振り

姫君のお輿入れ行列を伝えるのが福田寺（長沢）の公家奴振（県選撰文化財）です。福田寺はもともと古代豪族息長氏の菩提寺でしたが、その後、浄土真宗中興の祖、蓮如上人が三年間滞在され「長沢御坊」とよばれていきます。幕末、住職の三乗院本寛撰専の妻に、京の公家撰政関白家二条齋敬の妹君の彌子姫（明治皇后の従姉妹にあたる）との縁談の仲立ちを、本寛師の従兄弟にあたる彦根藩主井伊直弼にお願いされ、縁談がまとなり、直弼の仲人で福田寺へ嫁いでこられました。長沢村までの長い道中をお公家さんの嫁入り行列が続ぎ、村の衆一行が佐和山まで出迎え、一緒に行列に加わり、その中でもひとときわ目をひいたお公家さんの奴振りを身ぶり手振りの手真似で覚えながら福田寺に着きました。

「ヨーイヤセ アレワイサーノサー」の掛け声とともに、足裏を見せずに優雅に練り歩く公家の奴振りを、福田寺の一月中旬の報恩講や五月四日の熊野神社春祭りや披露、奉納し、後世に伝えられてきました。先導の



▲ 福田寺の公家奴振り

露払いに続き、挟箱、台傘、立傘、毛槍に長刀、公家と雅楽が続く行列です。次回は宇賀野と能登瀬の奴振りを紹介します。（歴史文化財保護課）

写真展 近江三奴と米原市の奴振り

場所 伊吹山文化資料館
会期 12月20日～2月15日

